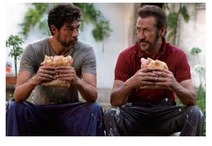

第8回 CINEX 映画塾

映画『湯を沸かすほどの熱い愛』
中野量太監督トークショー

第40回日本アカデミー賞で優秀賞を5部門受賞するなど、日本全国で話題沸騰中の映画『湯を沸かすほどの熱い愛』の中野量太監督を招いた第8回CINEX映画塾が1月21日、岐阜CINEX（岐阜市日ノ出町）で開催された。岐阜市内を初めて訪れたという中野監督は、キャスティングの経緯や監督自身のこれまでの歩みについてエピソードを披露してくれた。

（聞き手：後藤栄司岐阜新聞社東京支社長）

俳優は良い脚本を待ってくれている

後藤　『湯を沸かすほどの熱い愛』は、監督ご自身の思いがこもった脚本から始まったと聞きました。

中野　僕はずっと自主映画を撮ってきて、前作の『チチを撮りに』という作品でベルリン国際映画祭に招待されるなど、国内外で評価していただいた。それを受けて、プロデューサーが「オリジナルの脚本で映画を撮ってみようよ」と声をかけてくれたのがきっかけでした。最近、オリジナル脚本の日本映画は少ないのですが、僕自身ずっと脚本にこだわってやってきたので、商業映画デビューはどうしてもオリジナルの脚本で撮りたかった。そんな時に声をかけていただいたので、「やっと来た」と思いました。

後藤　脚本が完成して、撮影をするまでの経緯を教えてください。

中野　まず、お母さんを誰に演じてもらうかを決めなければと思いました。宮沢りえさんの名前は最初から候補に挙がっていたのですが、オファーもたくさん届いているだろうし、新人監督のオリジナル脚本作品でオファーするのはなかなか根性が必要です。でも、脚本を読んでもらえればチャンスはあると思っていました。後で分かったのですが、ちょうど前の仕事が終わったタイミングでこの脚本が舞い込んできたそうで、午前中に読んで、その日のうちに出演したいと思ったそうです。

その後、宮沢さんサイドから連絡があって、都内のカフェで初めて宮沢さんと会いました。宮沢さんは僕と同い年で、ずっとトップを走り続けてきた人なので緊張しましたが、とても気さくな方でした。この作品は湿っぽくもカラッとしたものにもできますが、宮沢さんも僕もカラッとした作品にしたいという想いで一致していました。絶対的で完璧な聖母ではなく、本当に普通のお母さんが一生懸命頑張って生きる話にしようということになり、出演を快諾していただきました。宮沢さんからOKをいただけたことで、一気にこの作品が動き始めました。

後藤　その他のキャストの方はどのように決まったのですか。

中野　娘の安澄（あずみ）を演じた杉咲花さんはずっと出演して欲しいと思っていて、脚本を書いている時もあてがき（演じる人を決めてから脚本を書くこと）しました。宮沢さんと杉咲さんに出演してもらうことを望んでいたので、「これでなんとか勝負出来るかな」と思いました。その後も、脚本を読んでくれたオダギリジョーさんとか、松坂桃李さんも出演したいって言ってくださって、結果的にこういうメンバーが集まった。こんな豪華なキャストになるなんて思ってもみなかったです。

後藤　出演者のみなさんが脚本の力を理解してくれたんですね。

中野　脚本はこだわってこだわって作ったので、本当に嬉しかったです。有名・無名を問わず、俳優は良い脚本を待っていることが分かったことが、僕の今後の映画人生にとって、大きい経験になりました。

後藤　『チチを撮りに』もそうですが、家族をテーマに、悲劇的な視点だけでなく、常に前向きな姿勢が明確にあると思いました。余命2ヶ月という設定は演技や演出がより重要になってくると思いますが、現実とファンタジーのメリハリが素晴らしいです。

中野　死ぬから悲しいという映画にはしたくなくて、残された時間を懸命に生きた人の話を撮りたかった。「泣きました」っていうお客さんの感想が想像以上にありましたが、それは悲しみではなく、人が人を本気で思う気持ちに涙を流してくれたのかなと思いました。

後藤　2回、3回と観る人も多いみたいですよね。

中野　2回目以降はストーリーの中に散りばめられた伏線を分かって観られるので、いろいろ考えながら楽しんでもらえます。2016年の好きな映画ベスト10をSNSに投稿していた人で、「1位湯を沸かすほどの熱い愛（2回目）」って書いていた人もいて、とても面白かったです。

挫折を経て生まれた渾身の傑作

後藤　中野監督はどのような学生時代を過ごしましたか？

中野　元々、映画少年ではなかったのですが、何かを表現をしたり、企んだりするのは大好きでした。大学時代はずっとバンド活動していて、映画は1年に3~5本観るくらいでした。大学3年生になって、周りが就職活動をする中、僕はどうしてもやる気になれなかった。僕はいったい何をしたいのかと考えた時に、「何かを表現して人を喜ばせるような仕事がしたい」と思い、その最高峰は映画じゃないかって思ったんです。「映画をやります」って宣言して、周りの友達からは「逃げているだけだ」ってすごく怒られました（笑）大学3、4年生で一生懸命映画を観て、大学卒業後に日本映画学校（現日本映画大学）に入り直しました。日本映画学校で初めて映画を作ったのですが、こんなに面白いことはあるのだろうかと思っちゃって、映画から逃げられなくなりました。日本映画学校の3年間で僕の運命は変わりました。

後藤　日本映画学校は今村昌平さんが設立したことでも有名ですけど、今村昌平さんの名前も知らなかったんですってね（笑）

中野　卒業制作の作品で、学年で1人しかもらえない「今村昌平賞」をもらったのですが、今村昌平監督を知らずに入学して、今村昌平賞を取ったのは僕くらいだと思います（笑）

後藤　卒業後の監督生活はどうでしたか。

中野　全然順風満帆ではありませんでした。日本映画学校を2000年に卒業して、映画の撮影現場で助監督をしていましたが、全然うまくいかなかった。怒られてばっかりで、途中で現場をクビになったりしたこともありました。その後、2年くらいで映画業界を離れて、テレビ番組のADをしたり、料理番組や子育て番組などを作っていましたが、映画を撮りたいという気持ちはずっと心の中にあって、自主映画を撮るしかないと思ったのが2005年。その作品も評価していただいて「まだやれるんじゃないか」と思いましたが、簡単にプロになれるものではありません。約3年おきに映画を撮って、『チチを撮りに』で最後の勝負に出て、『湯を沸かすほどの熱い愛』の公開が2016年ですから、日本映画学校を卒業してから16年かかりました。卒業制作の作品で今村昌平賞を取れたという経験があったから、こうした状況にも耐えられたのだと思います。

後藤　『湯を沸かすほどの熱い愛』はまだまだいろんな映画賞を取るでしょうし、日本各地で上映されていくと思うので、これからが楽しみですね。

数々の映画祭を席巻!!

『湯を沸かすほどの熱い愛』

宮沢りえ、杉咲花、篠原ゆき子、駿河太郎、伊東蒼／松坂桃李／オダギリジョー
監督・脚本：中野量太　配給：クロックワークス
［125分］ ©2016「湯を沸かすほどの熱い愛」製作委員会

岐阜CINEXで2/10（金）まで上映中

2016年 第90回 キネマ旬報ベスト・テン

（2017.1.10 キネマ旬報社発表）

	外国映画	日本映画
1位	ハドソン川の奇跡	この世界の片隅に◎
2位	キャロル★	シン・ゴジラ
3位	ブリッジ・オブ・スパイ	淵に立つ※◎
4位	トランボ ハリウッドに最も嫌われた男★	ディストラクション・ベイビーズ※
5位	山河ノスタルジア★	永い言い訳
6位	サウルの息子★	リップヴァンウィンクルの花嫁★
7位	スポットライト 世紀のスクープ★	湯を沸かすほどの熱い愛★
8位	イレブン・ミニッツ※	クリーピー 偽りの隣人
9位	ブルックリン※	オーバー・フェンス
10位	ルーム★	怒り

※…岐阜県内未公開　★…映画部上映作品　◎…岐阜CINEX上映予定作品

キネマ旬報ベスト・テン全作品の選評は2/3発売の『キネマ旬報2月下旬特別号』に掲載!

『キネマ旬報2月下旬特別号』を抽選で5名の方にプレゼントします。

郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、ご応募ください。

〒500-8577（住所不要）
岐阜新聞社広告局
「キネマ旬報プレゼント」係
FAX 058-263-7659
Eメール eiga@gifu-np.co.jp

2/10（金）必着

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

3 胸騒ぎのシチリア 2/11（土）▶24（金）

POINT アラン・ドロンの『太陽が知っている』（69）のリメイク映画と聞くだけで、胸が騒ぐ方も多いのでは。美しい自然とファッション、そしてストーンズの音楽。この甘美な誘惑に満ちた映画の挑発を劇場で！

トップスターのマリアンと、年下の恋人、昔の男と多分その娘
愛と欲望が交差し、誘惑と嫉妬が加速する――

世界的な人気を誇るロックスターのマリアンは、お忍びで南イタリアの孤島、シチリアのパンテッレリーア島へヴァカンスにやってくる。声帯の手術を受けたばかりでほとんど声が出ない彼女は、恋人で無名の映画監督ポールとふたりだけで静かに過ごそうとしていた。ところが、マリアンの元彼でカリスマ音楽プロデューサーのハリーが、セクシーな娘ペンを連れて押しかけてくる。歌って踊り続けるエネルギーの塊のようなハリーに、マリアンのセレブな休暇はかき乱されていく。実はハリーは、マリアンとの復縁を狙っていた。若さを持て余したペンはポールへの好奇心を募らせていくが、一方で父親のハリーとも妖しげな雰囲気を漂わせる。やがて、マリアンの嫉妬と困惑と迷いが最高潮に達した時、思いもよらない事件が待ち受けていた。

ティルダ・スウィントン、ダコタ・ジョンソン、レイフ・ファインズ、マティアス・スーナールツ ほか
監督：ルカ・グァダニーノ　配給：キノフィルムズ　時間：125分
©2015 FRENESY FILM COMPANY. ALL RIGHTS RESERVED
イタリア　フランス

4 92歳のパリジェンヌ 2/18（土）▶3/3（金）

POINT フランスの元首相リオネル・ジョスパンの母親の実話から生まれた感動作！尊厳死という重いテーマを、ユーモアで和らげながら描いています。尊厳死に対しての賛否などあると思いますが、家族を想いながら見て欲しい作品。

「2か月後の10月17日に逝きます―」92歳の誕生日に、突然母が告げた
自分らしく生きることにこだわる母と、その想いに向き合った家族が過ごした、最後の日々とは

92歳の誕生日を迎えたマドレーヌは、子どもや孫に囲まれ、祝福ムードのパーティの席でスピーチを読み上げる。「今まで本当にありがとう。素晴らしい人生だわ。でもその時が来たの。2か月後の10月17日に私は逝きます―」身体の自由が利かなくなってきたら、自ら人生を終わらせたいというマドレーヌの突然の宣言に、ショックを受け、困惑する家族に対し、優しさとユーモアに溢れたお手伝いのヴィクトリアは彼女の計画を応援する。娘ディアーヌからの同居の申し出をキッパリと断り、一人暮らしを続けるマドレーヌだったが、腰を痛めてボヤ騒ぎを起こし、救急車で運ばれ入院してしまう。ベッドの上で「点滴の管を付けたまま死ぬのはごめんだわ」と強く訴えるマドレーヌ。母を説得しようとするディアーヌだったが、母の生き方や強さに次第に心を動かされていく。

サンドリーヌ・ボネール、マルト・ヴィラロンガ、アントワーヌ・デュレリ、ジル・コーエン、グレゴアール・モンタナ、ザビーネ・パコラ
監督・脚本：パスカル・プザドゥー　配給：ギャガ　時間：106分
©2015 FIDELITE FILMS - WILD BUNCH - FRANCE 2 CINEMA - FANTAISIE FILMS
フランス

5 アイヒマンを追え！ ナチスがもっとも畏れた男 2/18（土）▶3/3（金）

ナチス最重要戦犯アドルフ・アイヒマンを捕獲せよ！
戦後ドイツの未来を憂えて正義と信念を貫いた
孤高の検事の心揺さぶる物語

POINT ドイツ映画賞で6冠を達成した、緊張感あふれるサスペンス。『ヒトラー暗殺、13分の誤算』でナチスの刑事警察長官を演じたブルクハルト・クラウスナーが、ナチスの最重要人物を追い詰めます！近年多いヒトラー関連作品の中でも、チェックしておきたい1本。

1950年代後半のドイツ・フランクフルト。ナチスによる戦争犯罪の告発に執念を燃やす検事長フリッツ・バウアーは、未だに大勢の元ナチス党員が政治やビジネスの中枢に残る現状に苛立ちが募る日々を送っていた。ある日、ユダヤ人亡命者から、「ナチス政権下で数百万人のユダヤ人を強制収容所送りにした親衛隊中佐アドルフ・アイヒマンが、ブエノスアイレスに潜伏している」という手紙がバウアーに届く。友人である州首相ツィンに事の次第を打ち明けたバウアーは、ナチス残党が巣食う捜査機関が信用できず、イスラエルの諜報機関モサドに情報を提供すると伝えるが、「国家反逆罪で刑務所送りになる」と警告される。しかし、アイヒマンの罪をドイツで裁きたいバウアーは、単身イスラエルのエルサレムへ渡る。

ブルクハルト・クラウスナー、ロナルト・ツェアフェルト ほか
監督・脚本：ラース・クラウメ　配給：クロックワークス／アルバトロス・フィルム　時間：105分
©2015 zero one film / TERZ Film
ドイツ

2 神様の思し召し

2/11（土）▶24（金）

天才だが傲慢なエリート外科医と、
ムショ帰りだが大人気のカリスマ神父
何もかも正反対のふたりが巻き起こす、
イタリア発の陽気で素敵な人生讃歌！

POINT 2015年の東京国際映画祭で観客賞を受賞したイタリアンコメディが登場！大ヒットしたフランス映画『最強のふたり』を彷彿とさせるこの映画が少しでも気になったあなた、それも〝神様の思し召し〟かもしれませんよ。

今日も完璧なオペで、患者の命を救った心臓外科医のトンマーゾ。医師としては天才だが、傲慢で毒舌で周りからは煙たがられていた。ボランティアが趣味の妻との仲は倦怠気味で、お気楽な長女はさえない男と結婚。頭脳明晰な長男が医学の道を継いでくれれば満足だったが、あろうことか「神父になりたい」と宣言する。表向きは物分かりのいいフリをして教会に潜入したトンマーゾは、息子が派手なパフォーマンスで人気のピエトロ神父に“洗脳”されているとにらむ。さらに、神父が実は前科者であることが判明。ドンマーゾは「失業して無一文で妻からはDVを受け、もうどん底だと悩む信者」を装って神父に近づくが、親身になった神父に家族に会いに行くと言われてしまい、追い詰めるはずが逆に追い詰められてしまう。

マルコ・ジャリーニ、アレッサンドロ・ガスマン、ラウラ・モランテ、イラリア・スパダ ほか
監督・脚本：エドアルド・ファルコーネ　配給：ギャガ　時間：88分
©Wildside 2015
イタリア

映画部員No.2 岐阜市立図書館 **吉成信夫館長のオススメ作品！**

湾生という言葉を私は知らなかった。青い海と明るい陽光に包まれて育った南の土地の記憶を、人は生涯忘れることはない。里帰りする日本人を温かく迎え入れる台湾の人々の優しさが滲む。なんだか台湾を訪れてみたくなった。

1 湾生回家

2/4（土）▶17（金）

POINT ミニシアターの元祖、東京・神保町の岩波ホールでも上映された作品。故郷を、先祖を思う湾生たちに訪れる、ドキュメンタリー映画の域を超えた感動をぜひ劇場で感じてください。

戦前、日本統治下の台湾で生まれ育った約20万人の日本人「湾生」
そんな「湾生」たちの故郷への想いに台湾全土が笑い、涙したドキュメンタリー

敗戦によって台湾から日本本土へ強制送還された日本人は、軍人・軍属を含め約50万人。台湾で生まれ育った「湾生」と言われる日本人にとって、台湾は仮住まいの土地ではなく、一生涯を送るはずの土地であり、紛れもなく大切な故郷でした。しかし、彼らは敗戦という歴史の転換によって故郷から引き裂かれ、未知の祖国・日本へ戻されたのです。戦後70年という長い年月を経る中で、かつて20万人と言われた「湾生」が高齢化して忘れ去られようとしており、残された時間のなかで「湾生」たちが語る言葉の端々から、台湾に対する信頼と絆、愛、希望、そして平和への願いが、私たちの心の中に静かに響いてきます。彼らの身を焦がすような台湾への愛から生まれた作品であり、時間と空間を超えた人間同士の友情と家族の絆の物語。

冨永勝、家倉多恵子、清水一也、松本洽盛、竹中信子、片山清子 ほか
監督：ホァン・ミンチェン　配給：太秦　時間：111分
©田澤文化有限公司
台　湾

6 ヒトラーの忘れもの 2/25（土）▶3/10（金）

POINT デンマーク産ヒトラー映画の傑作！ナチスの遺恨は世界中に「忘れもの」として人間の歴史に負債を刻んでいることを痛感する。2015年に東京国際映画祭で上映されたタイトルは『地雷と少年兵』。中野量太監督も絶賛してました！必見。

『湯を沸かすほどの熱い愛』の中野量太監督もオススメ！

「無垢な希望である少年兵が、
愚かな絶望である
地雷を除去する姿に、心が震えた。
実話だと知って、魂が震えた。」

美しい浜辺にナチスが埋めた200万もの地雷を撤去したのは、ドイツの少年兵だった
デンマーク国内でも知られることのなかった真実の物語

1945年5月、ナチス・ドイツによる5年間の占領から解放されたデンマーク。ドイツ軍が海岸線に埋めた無数の地雷を除去するため、地雷を扱った経験がほとんどない捕虜のドイツ人少年兵が駆り出された。彼らを監督するデンマーク軍のラスムスン軍曹は、全員があどけない少年であることに驚くが、ナチスを憎む気持ちをぶつけるかのように、初対面の彼らに容赦ない暴力と罵声を浴びせる。広大な浜辺に這いつくばりながら地雷を見つけ、信管を抜き取る作業は死と背中合わせだった。少年たちは祖国に帰る日を夢見て苛酷な任務に取り組むが、飢えや体調不良に苦しみ、地雷の暴発によってひとりまたひとりと命を落としていく。そんな様子を見て、疑問を抱くようになったラスムスンは、帰郷を願う少年たちの切なる思いを叶えてやろうと胸に誓うようになる。

ローラン・ムラ、ミゲル・ボー・フルスゴー、ルイス・ホフマン ほか
監督・脚本：マーチン・サントフリート　配給：キノフィルムズ　時間：101分
©2015 NORDISK FILM PRODUCTION A/S & AMUSEMENT PARK FILM GMBH & ZDF
デンマーク　ドイツ

岐阜新聞 映画部

【協　賛】キリンビール株式会社　大和証券 Daiwa Securities
【協　力】キネマ旬報社　【企画・制作】岐阜新聞社広告局

映画みんと倶楽部 2月の活動

2月26日（アメリカ現地時間）に開催される第89回アカデミー賞®授賞式。13部門14ノミネートされた『ラ・ラ・ランド』が話題ですが、主演女優賞（メリル・ストリープ）・衣装デザイン賞の『マダム・フローレンス！夢見るふたり』や、外国語映画賞の『ヒトラーの忘れもの』など、要注目のノミネート作品が映画みんと倶楽部で上映されます！今月のラインアップもお見逃しなく！

7 マダム・フローレンス！ 夢見るふたり

2/25（土）▶3/10（金）

絶世のオンチだが音楽を純粋に愛する
マダムと、彼女に惹きこまれた男たち
NYオペラの殿堂カーネギーホールで
伝説の幕が上がる！

POINT とんでもなく音痴なセレブマダムの愉快でキュートな物語。そう！『偉大なるマルグリット』（2016年映画部上映作品）と同じ話なのです。メリル・ストリープ（アカデミー賞®主演女優賞ノミネート！）とヒュー・グラントの絶妙な演技を楽しみましょう！

メリル・ストリープ、ヒュー・グラント、サイモン・ヘルバーグ ほか
監督：スティーヴン・フリアーズ　配給：ギャガ　時間：111分
©2016 Pathe Productions Limited. All Rights Reserved

ニューヨークの社交界のトップ、マダム・フローレンスの尽きない愛と財産は、夫のシンクレアと音楽に捧げられていた。ソプラノ歌手になる夢を追い続けるフローレンスだが、自分の歌唱力に致命的な欠陥があることに気付いていない。愛する妻に夢を見続けさせるため、シンクレアはおひとよしなピアニストのコズメという伴奏者を見つけ、マスコミを買収し、“音楽愛好家”と称する信奉者だけを集めた小さなリサイタルを開催するなど献身的に立ち回っていた。しかしある日、フローレンスは世界的権威のあるカーネギーホールで歌うと言い出す。持病を抱えながらも音楽に生きる彼女の命がけの挑戦に、シンクレアも一緒に夢をみることを決める。やがて、笑いと涙に包まれた奇跡の公演の幕が上がる。

主人公マダム・フローレンスの波乱の人生を綴った評伝「フローレンス・フォスター・ジェンキンス 騒音の歌姫」がキネマ旬報社より発売中！

イギリス

岐阜新聞・映画部 公式SNSで情報更新中！

映画みんと倶楽部 限定上映作品 入場料金

大 人	大学生	シニア	高校・中学・小人	サービスデー
(1,800円のところ) 1,500円	(1,500円のところ) 1,300円	(1,100円のところ) 900円	(1,000円のところ) 800円	●レディースデー（毎週水曜・女性のみ） ●ファーストデー（毎月1日） ●エブリデイ・ナイトサービス（毎日夕方18時以降） (1,100円のところ) 900円

上映作品に関するお問い合わせ
岐阜CINEX
TEL 058-264-7151
岐阜市日ノ出町2-20（柳ケ瀬・高島屋前）